

一般演題 (ポスター) 卒後教育

座長: 喜多里己 (日本赤十字看護大学)

P-19

臨床助産師によるコミュニケーション・スキルの自己評価

-ENDCOREsを用いた検討-

○河内浩美 池田かよ子

新潟青陵大学看護福祉心理学部看護学科

I 緒言

助産師にとってコミュニケーション・スキルは、妊婦健診や保健指導といった場面から分娩介助や育児支援といった長期的な関わりにおいて、対象者と信頼関係を築くうえで重要な技術である。これまで、助産師を対象とした調査は、ほとんど見当たらない。そこで、臨床助産師のコミュニケーション・スキルの実態を明らかにすることを目的に調査を行った。

II 方法

平成25年1~3月に、A県で産科を有する診療所と病院に勤務する助産師を対象とした。

方法は、無記名による自記式質問紙調査であり、主な内容は、コミュニケーション・スキルであり基本的スキル「自己統制」「表現力」「読解力」と対人スキル「自己主張」「他者受容」「関係調整」の下位スキルが測定可能なENDCOREs尺度を用いた。

分析は、7件法で得た下位スキルごとの平均点(範囲:1~7点、得点が高い程そのスキルが得意であるとする)を求め、年代別、養成機関別、助産師の経験年数別、配属別との関連について一元配置分散分析と多重比較(Dunnett t検定)を行った。

倫理的配慮として、新潟青陵大学倫理審査委員会の承認(No.2012011)を受け、実施時に文書にて本研究の趣旨と方法、個人情報保護、参加拒否の権利について説明し、質問紙の返送をもって同意が得られたものとした。

III 結果

配布数130人のうち回収数60人(46.2%)、有効回答数56人(43.1%)であった。対象者の平均年齢は 34.6 ± 8.2 歳、年齢区分は20代16人、30代26人、40代12人、50代以上2人であり、助産師の臨床経験年数は 11.6 ± 8.3 年であった。

助産師全体における下位スキルの得点は、基本的スキルの「自己統制」 4.15 ± 0.7 点、「表現力」 3.41 ± 0.9 点、「読解力」 4.11 ± 1.1 点であり、対人スキルの「自己主張」 3.48 ± 0.9 点、「他者理解」 4.66 ± 0.8 点、「関係調整」 4.25 ± 0.7 点であり、最も高い得点を示したのは「他者理解」であった。

年代別、養成機関別、助産師の経験別、配属別と下位スキルとの関連は、年代別の3群間(50代以上を除く20、30、40代)の多重比較において対人スキルの「自己主張」のみ40代(16.17 ± 4.9 点)が20代(12.69 ± 3.7 点)より有意に高かった($p=0.028$)。その他については、有意差がみられなかった。

IV 考察

助産師のコミュニケーション・スキルについて、対人スキルの「自己主張」が40代で高かったことは、年代を経た様々な経験の積み重ねによるものといえる。また、下位スキルの中で得点が高かった「他者理解」と「関係調整」は、対象者との関係性や他職種と連携を深める上で重要なスキルとして重要であり得意としていることが明らかとなった。

V 結論

臨床助産師がコミュニケーション・スキルにおいて最も得意とした項目は、対人スキルの「他者理解」であった。また、対人スキルの「自己主張」は、40代が20代よりも有意に得意であるとした。